

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 大分 開催概要 【開催日：令和6年10月22日】

[学校訪問] 大分市立鶴崎中学校
[訪問者] 大分県教育委員会（山田教育長、教育委員、教育次長 他）
大分市教育委員会（栗井教育長、教育委員 他）

1. 概要説明

大分市立鶴崎中学校では、「確かな学力とたくましさをも身につけた心豊かな生徒の育成」を学校の教育目標とし、①向学探求、②自他敬愛、③自主自立、④地域・関係機関との連携の4点を学校経営の重点として組織的な取組を進めている。

当日は、地域社会との連携（鶴翼会の取組、本場鶴崎踊大会への参加、3小学校区公民館との連携等）や不登校の現在の状況や具体的な取組である「そらいろルーム」（校内教育支援センター）の様子、組織的な対応等についての説明があった。



概要説明をする
鶴崎中 植木校長

2. 授業参観

1年生の理科、1年生の社会科、「そらいろルーム」の様子、通級指導教室での学習の様子を参観した。



1年理科（「蒸留」）での学習活動の様子

3. 意見交換(主な意見)

- ・子どもたちは、とてもよい表情で学習活動に取り組んでいたのが印象的であった。
- ・たいへん興味深い授業が展開されていた。今後も子どもたちの学びの世界をより深めたり広げたりしてあげてほしい。
- ・通級指導教室や「そらいろルーム」では、いきいきと明るい表情で学習に向かう姿が見られた。県としても、このような好事例を積極的に発信していきたい。

[意見交換会テーマ] 「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
～本市における不登校の未然防止と支援について～
[出席者] 学校訪問参加者及び学校関係者

1. 大分市の取組説明「本市における不登校の未然防止と支援について」

大分市では、本年度、不登校の未然防止に向けて児童生徒を支援する「OITA COCOLO PLAN」を策定した。

大分市の取組説明では、大分市における不登校の現状の報告や本プランに基づく具体的な取組（「スロースタートプログラム」、一人1台端末の持ち帰りによる学習支援等）の紹介があった。



取組説明をする
平田学校教育課長

2. 意見交換

(1)各校の不登校対応について

まず、出席者より各校での具体的な不登校対応の紹介があった。当日は、小中学校の校長だけでなく、スクールライフサポーターも参加した。

① 金池小学校

- ・子どもが安心して過ごすことのできる居場所づくりの一環として、別室を設置している。もう1つはできるだけ多くの大人が関わり、その中でも比較的相性のよい方と長く過ごすことができるように組織的な取組を進めている。

② 西の台小学校

- 一人一人の不登校の要因を的確に捉えた上で、つながりを持っていこうという方針で取り組んでいる。未然に防ぐための取組として、1つめは、家庭への働きかけ。特に、子どもの変化に対する早期の発見と共通理解に力を入れている。2つめは、生徒指導の3機能を生かしながら授業の中で子どもを認めていくことに全教職員で取り組んでいる。

③ 坂ノ市小学校

- 遠隔システムを活用した授業を実施している。本校は、教科担任制を行っていることもあり、学級担任だけでなく、様々な教職員と授業を通して関わることができている。また、学校に来ることはできるが教室には入ることのできない子どもに対して、別室で遠隔システムを活用した授業を受けられるように学習環境を整備している。

④ 王子中学校

- 新たな不登校を生まない、中1ギャップを解消することを目的に「スロースタートプログラム」を行った。具体的な取組としては、i) 年度初めの約2週間、5校時授業の実施 ii) 学級担任との教育面談 iii) 学年集会での細やかな学習指導 iv) 学年・学級レクの実施 v) 4月末での部活動の入部開始 vi) 丁寧な言葉遣いによる子どもとの関わり等がある。子どもたちだけでなく、教職員にもゆとりを生み出すことができたのは、成果の1つとしてあげられる。

⑤ 大東中学校

- 「一人だったら学習に取り組める」や「この教科だったら教室で授業を受けることができる」といったように、子どもたちの学習のあり方は、多様であることを教職員間で捉え直しをしている。本年度は、それを踏まえて「すこやか教室」(校内教育支援センター)の機能を強化することで、生徒一人一人の学習機会をいかにして保障していくのかに力を入れて取り組んでいる。

(2)意見交換会の中で出された主な意見

- 各学校で、細やかな工夫や配慮を行っていることがありがたい。また、早期に対応することの大切さを改めて実感した。それぞれの取組により、改善傾向が見られていることに安心した。
- 成果等の確認については、本年度だけで終わるのではなく、複数年かけて効果を検証して欲しい。
- 各学校での先生方の日々の努力に感謝したい。自分もできることを頑張ろうと強く感じた。
- 社会や一般企業においては、一芸に秀でた人材が強く求められている。本日鶴崎中で参観した通級指導教室や「そらいろルーム」での学習活動にもあったように、その子のよさや強みを活かすような指導支援をこれからもお願いしたい。



テーマ別意見交換会での様子

3. 意見交換を終えて

(1) 粟井市教育長より

不登校の要因としては、複合的なものが多いことから、学校・家庭・地域のそれぞれで実現可能なことをしっかりと行っていくことの大切さを再認識した。その子にとって必要な支援を着実に行っていきたいので、今後もよろしくお願ひしたい。

(2) 山田県教育長より

本日の意見交換会に参加して、多くのことを共有することができた。大分市の「OITA COCOLO PLAN」は、様々な手立てが盛り込まれており、たいへん素晴らしいプランだと感じた。成果も着実に表れてきているとのことなので、県下の他市町村に優れた取組を広げて欲しい。不登校にある子どもたちの状況はそれぞれ異なるが、とりわけ学校に登校できていない子どもたちに対して、いかに手を差し伸べていくかが大切であると考えます。今後もどのような支援のあり方がよいのか一緒に考えていきたい。



粟井市教育長 山田県教育長